

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 川崎市日本語指導等協力者勉強会

1 事業の趣旨・目的

川崎市では、来日して間もない児童・生徒が区役所で登録した際に総合教育センターでの面接を勧めている。その後、子どもの状況に応じて、その児童・生徒の通う市立小・中学校へ日本語指導等協力者の派遣事業を行っている。指導内容は、日本語指導はもちろんのこと、異文化で暮らす子どもたちに寄り添って心のケアを含めた対応を行っている。その主たる日本語指導をネイティブである日本人はもちろんのこと、外国人の人たちも担っている。しかし、日本語指導等協力者になるための資格は日本語の他にもう一つの言語ができるということのみである。そのため、実際に指導する協力者の能力にはかなりのばらつきがある。門戸を広げて多様な協力者を採用しつつも、指導者としての質を一定のレベルに保つためにも、今回の日本語研修は不可欠と考える。また川崎市と同様に、児童・生徒に対し日本語支援をしている他地域との意見交換を通して、より良い指導のための幅広い視野を持つことも目指した。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 22 年 5 月 26 日(水)14 時～17 時	川崎市総合 教育センター	池田恵子 古村睦美 斉木伸子 高橋悦子 田子はるみ 段村洋子 三宅裕子 村井直子 佐藤公孝	本年度のセミナー日程 ・講師・内容などの確認 チラシ案 アンケート案	夏休みの日本語講座の 内容、講師の決定。 公開授業の授業者・授 業形態の検討。 教育センターとの共催 のため、見やすく分かり やすい募集チラシのデ ザイン検討。 アンケートに出身国、年 代別、性別を記入しても らうよう改訂する。

平成 22 年 6 月 4 日(金)16 時半～18 時	同上	同上 9 名	次回セミナーの確認	当日の役割分担を決める 講師より送付の印刷物の確認 夏の日本語講座の参加者の再確認。再度出席を促す。
平成 22 年 7 月 3 日(土) 14 時～16 時	同上	同上 9 名	夏の日本語講座の検討	全 8 回の講座の役割分担 講師との打ち合わせにより、レベル別のクラスを用意することになった。 教材の準備・印刷の確認。 受講希望者へ再度電話をして出席の確認をする。
平成 22 年 11 月 12 日(金) 14 時～17 時	同上	同上 9 名	全体の振り返り 各セミナーから分かった課題の確認 実施内容報告書 & 委託業務完了報告書について確認	受講者のアンケートから、問題点、よかった点などを検討し、次への課題を探し出す。 報告書の内容について討議、確認する。

【写真】

3 養成講座の内容について

(1)養成講座名

川崎市日本語指導等協力者・外国人協力者のための日本語能力アップ研修講座

(2)養成講座の目標

川崎市の日本語指導等協力者の採用時の特徴である、広い門戸と多様な人材、から起こる児童・生徒の指導・対応へのレベル差を一定の水準に保つために、例えば、日本語検定 4 級程度の外国人協力者を、3 級に引き上げられるような日本語能力アップの講座をめざす。

また、他地域(ここでは豊橋市)での外国人児童・生徒への支援体制・取り組み等を学ぶことにより、川崎での活動と比較・検討したりして、今後の日本語指導に役立てたい。

さらに、協力者の公開授業を参観して、指導の実践力、教材の活用力の向上を図る。そ

の際は、日本人協力者も参観自由とする。これは「ことば」で授業のやり方を説明するよりも実際に授業を見て学ぶ方がより効果的であると考えたからである。

(3) 受講者の総数 54 人

(出身・国籍別内訳 日本 28 人、中国 14 人、韓国 6 人、フィリピン 4 人、台湾 1 人、ブラジル 1 人)

(4) 開催時間数(回数) 21 時間 (10回)

(5) 参加対象者の要件

- ・川崎市日本語指導等協力者(外国人協力者及び日本人協力者)
- ・当セミナーの趣旨を理解する人

(6) 受講者の募集方法

- ・協力者が派遣されている学校へ川崎市総合教育センターから学校間便を使って募集チラシを配布
- ・今現在派遣されていない協力者には、郵送でチラシ・申し込み用紙を配布。
- ・登録者に対しパソコンで募集 (チラシも添付)

(7) 研修会場

- ・川崎総合教育センター研修室
- ・川崎市立宮前小学校
- ・豊橋市立多米小学校・同市立東部中学校・同市立岩田小学校

(8) 使用した教材・リソース

- ・国語の森 1 年 言葉をふやす
- ・国語の森 1 年 説明文に強くなる
- ・国語の森 1 年 物語文に強くなる
- ・国語の森 2 年 漢字力をつける
- ・レベル別 日本語多読ライブラリー レベル0 vol. 1
- ・レベル別 日本語多読ライブラリー レベル0 vol. 2
- ・レベル別 日本語多読ライブラリー レベル0 vol. 2
- ・レベル別 日本語多読ライブラリー レベル1 vol. 1
- ・ブラジル人と小学校教師のための学校生活まるごとガイド
- ・語学留学生のための日本語
- ・日本語を楽しく読む本 初中級 凡人社
- ・ことばあそび
- ・絵でマスター にほんご基本文型85

- ・にほんご45じかん(テキスト・練習帳)
- ・どんなときどう使う 日本語表現文型辞典
- ・日本語文型辞典
- ・「CD で聞くよみきかせおはなし絵本1」
- ・「JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE」
- ・項目整理 3級問題集
- ・項目整理 2級問題集
- ・項目整理 1級問題集
- ・みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説(中国語・韓国語・英語・ポルトガル語)
- ・初級を教える人のための日本語文法ハンドブック
- ・絵入り日本語入門
- ・Painless Japanese 動詞100 ケーエフプロジェクト
- ・中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック
- ・くらべてわかる日本語表現文型辞典

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月2日(金) 14:00～16:30	外国人児童生徒の 言葉の支援を考えよ う～豊橋の取組み から 外国人、特に南米人 の集住地域である豊 橋市の外国人児童 生徒の支援体制を学 ぶ	愛知県豊橋市教育委員 会 築樋博子	41名
7月22日(木) 10:00～12:00	日本語教室1 やさしいレベル1 <文法・語彙> 新しい日本語能力試 験 3級レベルの、文 法・語彙の問題を解 く。分からないことが あれば、文型辞典等 で調べたり、スタッフ と調べたりする。 講師が例題を加えな	東京学芸大学 国際教 育センター 准教授 菅原雅枝	5名

	がら解説する		
7月22日(木) 13:00~15:00	日本語教室 2 少し高いレベル1 <文法・語彙> 新しい日本語能力検 定 2 級レベルの、文 法・語彙の問題を解 く。2 級レベル問題を 簡単に終えた人は 1 級レベル問題に進 む。 講師が答え合わせを しながら、必要に応じ て解説をする。	同上	10名
7月23日(金) 10:00~12:00	日本語教室 3 やさしいレベル2 <読解> 講師が参加者1人1 人のレベルをチェック し、それぞれにあっ たレベルの読解問題 を解く。その後、スタ ッフが1対1対応で答 え合わせと解説をす る。	同上	6名
7月23日(金) 13:00~15:00	日本語教室 4 少し高いレベル2 <読解> それぞれのレベルに あった読解問題を解 く。答えの選択理由 について参加者どう しでディスカッション をする。	同上	9名

8月27日(金) 10:00~12:00	日本語教室 5 やさしいレベル 3 <書くこと> 各自、昨日の出来事を日記風を書いてみる。イラストを見て文を作り発表。講師より間違い訂正、解説。	同上	6名
8月27日(金) 13:00~15:00	日本語教室 6 少し高いレベル 3 <書くこと> 2級レベルの問題を解く。イラストを見て、状況・状態・理由の表現を使って、文の後半を完成させる。講師より、訂正、解説。 状況・説明・意見を入れながら『日本でいやだなとおもうこと』について作文を書く。	同上	12名
8月30日(月) 10:00~12:00	日本語教室 7 やさしいレベル 4 <文章表現 作文> 同じテーマ『カップラーメンの作り方』で各自作文を書き、発表。講師より、訂正、解説。ルール、作り方の説明文の書き方。 「点字のルール」をグループで話し合い、分かりやすく説明する。	同上	6名

8月30日(月) 13:00~15:00	日本語教室 8 少し高いレベル 4 〈文章表現 作文〉 『自分をアピールする 文章を書く』をテキストに、問題を解く。講師の解説を聞いた後、自分について整理し、作文を書くためのメモを書く。講師の訂正、解説。 「点字のルール」の説明を書いてみる。	同上	9名
10月14日(木)	公開授業 日本語指導等協力者の授業を見て研究し、課題を考える。 低学年児童の指導について講師の解説。 グループに分かれて、授業の工夫などについて話し合う。	同上	39名

『講座のための他地域視察』

10月7日(木) 8日(金)

出席者(池田恵子 斉木伸子 古村睦美 高橋悦子 田子はるみ 段村洋子
三宅裕子 村井直子)

今後川崎の外国人のバイリンガル養成の為のヒントを得るために、外国人集住地域である豊橋市の市立多米小・東部中・岩田小の国際学級の指導体制、内容をじっくり視察してきた。

各学校を視察することにより、具体的に川崎市との違いが明確になり、現在及び今後の研修・指導に大いに役立つ情報を得ることができた。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

各回の受講者からアンケートをまとめた。多く出た意見としては次のようなものがあった。

- ・日本語教室はとても勉強になった。機会があればもっと勉強したい。
- ・今後の指導に役立つ情報もたくさんあった。
- ・日本語を勉強すればするほど、まだまだだと思う。正しく話せるように勉強続けたい。
- ・公開授業を通して、低学年の現状と対策、具体的な教材などの話が今後の指導の参考になると思った。

② 実施主体からの研修内容結果評価

日本語教室に参加し、日本語能力試験の数種のレベルの教材に接することで、客観的に自分の日本語レベルを把握し、もっと勉強が必要だということを気付いてもらえた。引き続き講座を受講したいとの声が多数聞かれた。また、他の協力者の授業を見ることで、自分の指導を反省したり、教材等の情報を得られたりと、今後の指導に役立ててもらえると考える。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

夏休みに行っている日本語能力ブラッシュアップのためのセミナーは、実際に指導をしている人達の日本語のレベルを考えると、残念ながら今後もまだ必要だと考える。地域に住み地域に還元する多文化共生社会という意味でとても必要であると思う。また、スキルアップを図る中で、外国人協力者も有効に使える川崎市の協力者が現場で使用できる独自の教材を共に開発していきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

川崎市総合教育センターとの太いパイプを作ることができた。その後も発展して現場の各学校とも協力体制を持つことができた。集住地域とスタイルは多少異なっても外国人の協力者のシステムがしっかり構築されている豊橋市の方々とも今後情報交換ができる下地ができた。

② 研修後の人材活用

川崎市の市立小・中学校に派遣される日本語指導等協力者として活用する。

(12) 今後の課題

講師を招いて、座学で講義をずっと聞く形式の講座は、外国人協力者にとっては難しいと思われ、日本人協力者以外の出席者が少ない傾向にある。外国人協力者の参加を増やすために、講義とともに、グループ作業や ワークショップ形式のセミナーをどうミックスさせていくかが、今後の課題である。